

第27期 第6回北九州市スポーツ推進審議会

- 1 開催日時 令和元年7月24日(水) 10:00～11:30
2 開催場所 北九州市役所本庁舎5階 特別会議室A
3 出席者 委員11名、事務局(北九州市)14名 計25名

- 【審議会委員】 井上 勝美(北九州市小学校体育連盟)
大曾根 聡子(NHK北九州放送局長)
会長 加倉井 美智子(北九州市立大学名誉教授)
河邊 政恵(株リバー不動産代表取締役)
倉崎 信子(九州栄養福祉大学准教授)
小山 繁(福岡県高等学校体育連盟副会長)
中溝 直樹(北九州市中学校体育連盟会長)
平野 月子(NPO法人北九州市レクリエーション協会理事)
眞鍋 厚毅(北九州市障害者スポーツ協会事務局長)
南 博(北九州市立大学教授)
宮田 義高(公益財団法人北九州市スポーツ協会事務局長)

- 【事務局】 佐藤 保明(市民文化スポーツ局スポーツ担当理事)
天本 克己(市民文化スポーツ局スポーツ部長)
城戸 健一(市民文化スポーツ局スポーツ振興課長)
山根 英明(市民文化スポーツ局マラソン担当課長)
政徳 克志(市民文化スポーツ局スポーツ施設担当課長)
三浦 隆宏(国際スポーツ大会推進室長)
藤本 将志(国際スポーツ大会推進室次長)
ほか、市関係課から7名が出席

- 4 傍聴者 なし
5 議事 (1) 令和元年度主要事業について
(2) スポーツ団体に対する補助について
(3) 北九州マラソンについて(報告)
(4) 国際スポーツ大会等の誘致活動状況について(報告)
(5) 北九州市民スポーツ実態調査について(報告)

6 議事内容

(1) 令和元年度主要事業について

事務局より説明を行い、下記のとおり質疑応答の上、原案どおり承認された。

委員：本年度予算の主な増要因は何か。

事務局：桃園プールの新築、東京2020オリンピック・パラリンピックに関する事業、ラグビーW杯に関する事業などである。

会長：来年度の予算の見通しはどうか。

事務局：来年度は、東京2020オリンピック・パラリンピック開催年であり、本市はキャンプ地や聖火リレー実施都市なので、今後経費を精査していくことになる。

委員：熱中症対策のため、熱中症計で警戒レベルになると校庭で活動できないなど、子どもの運動が確保しづらい状況になっている。

事務局：命が最優先なので、熱中症対策は必要と考える。

会長：空調完備の市内の体育館は総合体育館、浅生スポーツセンターの2か所である。空調がない他の体育館は夏の大会や、災害時の避難所になることでの危険性はないのか。

事務局：8カ所の体育館が予定避難所だが、現在は市民センターが避難所となっており、体育館は過去一度も避難所にはなっていない。

大会開催等で空調の要望は受けているので、今後検討していきたい。

委員：学校現場では、東京2020オリンピック・パラリンピックの機運がまだ高まっていないとの意見も聞くが、機運醸成の取り組みは何か検討しているのか。

事務局：今年度は、選手の学校訪問や公開練習等を行う。北九州市をキャンプ地とする国のメニューを、給食で紹介できるよう教育委員会と調整している。

来年度は聖火リレーなどで機運の醸成を図りたい。

会長：オリンピックのレガシーを引き継ぎ、子どもたちにスポーツの楽しさを知ってほしいと願う。

委員：eスポーツについて、北九州市ではどう捉えているのか。

事務局：他都市や国の動向を調査すると、コンテンツ産業や新成長産業の振興、国ではクールジャパン戦略に位置付けられている。一方でスポーツ庁では、「スポーツの価値」にどう影響するのか、日本学術会議に意見を求めている。今後のスポーツ庁の動向を見守りたい。

委員：本市をホームタウンとする、ギラヴァンツ北九州とボルクバレット北九州とで支援に差があるのではないのか。

事務局：ギラヴァンツ北九州については、本市初のプロスポーツチームということでシンボルチームと位置づけ、シビックプライドの醸成、都市のイメージアップ、スポーツ振興につながるため支援している。補助金については、段階的に引き下げを行い、クラブも自主財源の確保を掲げている。

ボルクバレット北九州への支援については、協定を結び、総合体育館をホームアリーナと位置づけ利用調整に配慮している。浅生スポーツセンターに防球ネットやゴールを購入するなどの面でサポートをした。ホームゲームでの施設使用料も減免している。今年度からは市民向け観戦招待事業をしている。

(2) スポーツ団体に対する補助事業について

事務局より説明を行い、原案どおり承認された。

(3) 北九州マラソンについて

「北九州マラソン2020」大会日程及び前回大会について報告を行った。

会長：以前、トイレが少ないという課題があったが、今は解消できているのか。

事務局：特にスタート前など、完全に解消することは難しいが、以前より数を増やすなど努力はしている。

会長：「今年も落選した」との声を聞くが、連続して落選した方への救済措置みたいなものはあるか。

事務局：全員が救済できるというわけではないが、2回連続して落選すると1回抽選が多くなるという仕組みは設けている。

委員：受付時に配布する小学生が書いている絵の評判はいかがか。

事務局：先日、スポンサー企業を訪問した際、参加した社員の方から「すごく感動した」との声をうかがった。また、インターネット上にも「子供たちのおもてなしに感動した」ということが毎回書かれており、非常に評判が良い。

委員：参加者の内訳で市民と市民以外の方の比率、その推移はどうなっているか。

事務局：申込者のデータは手元にないが、昨年のエントリー総数13,502人のうち市内の方は5,703人だった。これまでと比率的にはそれほど変わっていない。

(4) 国際スポーツ大会等の誘致活動状況について

ラグビーワールドカップ2019日本大会や東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致など大規模大会の誘致状況について報告を行った。

会長：ワールドラグビー女子セブンズシリーズは北九州市で連続開催だが、来年もあるのか。

事務局：ワールドラグビーが開催地を決定するが、来年は日本開催がないため、当面は未定。

(5) 北九州市民スポーツ実態調査について

数年に一度行っているスポーツ実態調査の実施予定について報告を行った。

委員：LGBTへの配慮としては、性別の把握は必要あるのか。

事務局：分析のため必要と考えるが、どのような配慮の仕方があるのか検討したい。

委員：運動の頻度について、文科省のアンケートでは運動に使う時間も聞いている。

事務局：検討したい。

委員：今回の調査では対応の必要はないが、民法改正による成人年齢引き下げの際は、調査対象年齢も変更が必要と考える。